

八重野充弘さん

(作家・トレジャーハンター)

埋蔵金探しの心得とは？

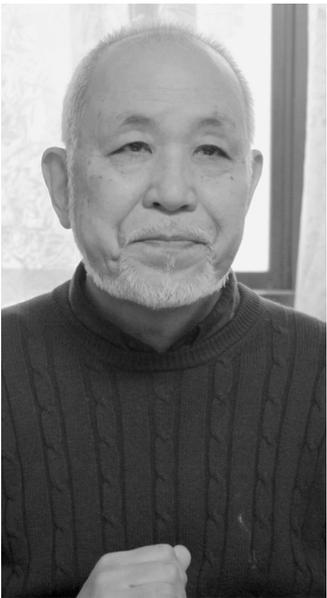
明智光秀埋蔵金、天草キリシタンの秘宝、徳川埋蔵金。聞くだけでワクワクする。知的好奇心を持って、財宝を本気で探すと、それはかなり高尚な遊びになる。ただし一つ間違つと……。極意を八重野さんに聞いた。

埋蔵金との出会い

——トレジャーハンティングとの出会いを教えてください。

一九七四年ですから、もう四十三年前のことです。子供向け雑誌の編集者時代に「天草キリシタンの秘宝」を取り上げたのです。一六三七年に起きた島原の乱で、天草四郎の一揆軍が鎮圧される前に軍用金を天草島にあった三角池に沈めて隠した——そういう伝説を、歴史物語として紹介したのです。

ると、たしかに山の中の湿地帯に窪地がある。近隣の古老に話を聞くと、かつては湿地帯のすぐ側を旧道が走っていたのがわかった。さらにその旧道を天草四郎軍が通った記録も残っていた。ひよっとしたら本格的に調べる価値があるのではないか、そう思いましたね。それから約三年間、ゴールデンウィーク、夏休み、年末年始の休暇を利用して、計八回の調査を行いました。地元の人に話を聞き、地物ならではの味を楽しみ、仲間たちといっしょに調査や発掘を行なう。それ自体がえらく楽しくて面白かった。



●やえの・みつひろ 一九四七年熊本県生まれ。立教大学社会学部卒業。編集者として学習研究社、くもん出版に勤務。九二年、作家、科学ジャーナリストとして独立し現在に至る。著書に『埋蔵金伝説を歩く』ボクはトレジャーハンター(角川学芸出版)、『埋蔵金発見! 解き明かされた黄金伝説』(新人物往来社)など。

実際に現地に行つたのですが、三角池は見つからなかったし、地元の人も三角池どころか秘宝伝説さえも知らなかった。正直言えば、ぼく自身もフィクションにすぎないだろうなと思つていたので。

東京に戻つて記事を書き終え、現地で取材に協力してくれた方に電話したら、思いがけない言葉が返つてきた。「三角池が見つかったぞ!」。その方は友人の兄で高校の先生をしていて、休みのたびに生徒を動員して三角池を探してくれていたんです。

そして宝探しに賛同してくれる仲間を集め、会社の夏休みを利用して天草に飛びました。現地に行つてみ

正月、調査を手伝ってくれた先輩が、「こんなぜいたくな正月は初めてだ。毎年、家でくだらないテレビ番組を見てるのが恒例だからね」と言ったのですが、たしかにぜいたくな遊びでした。

——事前に文献を読み込み、現地を訪れる。トレジャーハンティングとは旅そのもののようですね。

その通りです。三角池の発掘はメディアにも取り上げられましたよ。「夕刊フジ」は二日にわたつて見開きで紹介してくれましたし、ワイドショーの走りだった「小川宏ショー」の撮影班もやってきた。

でもぼくは自分たちの体験や思いをもつとストリートに記録して、多くの人に知らせたいと考えたわけですよ。こんなに面白いことをぼくと仲間たちだけの世界にするのはもったいないな、と。

そこで「三角池探検記・天草四郎軍の遺宝を求めて」と題した発掘の顛末を書いて、雑誌『旅』(日本交通公社)が募集していた日本旅行記賞に応募したので。そうしたら運よく賞をいただいた。

——キリシタンの秘宝は？

残念ながらキリシタンの秘宝は発見できませんでしたが、この初めての宝探しはぼくの人生を変えました